

宮森小の悲劇、映画に

「基地問題、知ってほしい」

1959年6月を「」が製作される。映画に小学生11人をのプロデューサーで県映画含む17人の犠牲者センター代表の本村初枝を出した宮森小ジェットさん(66)は「米軍基地さえ機墜落事故の悲劇を題材になければ死ななくてよかつた命がある。この映画を通し、今も続く沖繩の基地は忘れない。あの日の空



「宮森小の悲劇を通して今も続く沖繩の基地問題を考えしてほしい」と訴える本村初枝プロデューサー。17日、那覇市天久の琉球新報社

地問題の現状を、本土の人たちにも知ってほしい」と強調した。

映画製作は、2010年度最優秀プロデューサー賞(協同組合日本映画制作者協会主催)を受賞した桂壮三郎さんが3月、本村さんに「沖繩を題材にした映画を撮りたい」と相談したことがきっかけ。脚本は大城貞俊琉球大准教授。全国で1枚千円の製作協力券を販売し、製作費を集める。また、事故の経験者でもある元宮森小学校長の平良嘉男さんらも賛同し、映画「ひまわり」を成功させる沖繩県民の会に名を連ねている。12年7月から撮影を開始し、13年に全国の映画館での公開を目指す。